



## 今年度のESDの重点目標

人を取り巻く環境に対する概念（多様性・相互性・有限性）

### 【令和3年度 ESD 実践報告】

#### 01 “届けよう！服の力” プロジェクト

八千代台地区の他の学校と協力し、着られなくなったり、着なくなったりした服を回収する活動を行った。児童会の子どもたちが中心となり、ポスターを作成し各学級へ声掛けをした結果、予想を超えるほどの服が集まった。他の学校や企業の協力を得ながら、難民の方々など、世界中で服を必要としている人々に届ける予定。この活動を通して、着られなくなったり、着なくなったりした服でも、何かの役に立つということを知り、全校の児童が知るきっかけとなった。

12 つくる責任  
つかう責任



担当児童による、校内放送での呼びかけの様子。約3日間に渡って児童会の子どもたちが各学級を訪問し、呼びかけや服の回収を行った。

#### 02 残菜を減らそう！～完食 WEEK～

給食委員会の児童が中心となって行った活動。全員の配膳が終了した後、自分で量を調整する時間を確保し、自分の食器の食べ物を全て食べられるよう、全校児童で取り組んだ。自分自身がどれぐらいの量であれば完食できるのかを知ることができた。また、「いただきます」の前に減らす時間を確保することで、「まだ食べたい」「もう少し食べられる」という子どもたちに、増やすことができたため、結果として食缶への残菜が少なくなった。食べ物の大切さや、毎日給食が食べられることに対して、感謝の気持ちをもつきっかけとなった。

2 飢餓を  
ゼロに



学級で、より残菜を減らすためにどうすれば良いのか考え教室に掲示した。



#### 03 子どもたち同士のコミュニケーションを核とした授業改善

4 質の高い教育を  
みんなに



どの教科においても、子どもたち同士のコミュニケーションを大切にしながら授業を展開できるよう、職員も教材研究に努めた。コロナ禍ということもあり、話し合いやグループ活動が制限される中、新たに導入されたタブレットを活用したり、付箋やコメントカードを使用したりするなど、学年や学級の実態に合った方法を模索しながら授業を展開した。